

第53号

2019年12月発行

【発行元】  
港区芝地区総合支所協働推進課  
発行部数31,000部



# 地区 芝地域情報誌



『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



ロビーは創業からの雰囲気再現



## The Okura Tokyo

### ——第2の創業で新たな時代をリードするラグジュアリーホテル——

昭和37年(1962)開業以来、世界中のVIPをお迎えして日本を代表するホテルとして定評のあるホテルオークラ東京が、今年9月12日にThe Okura Tokyoに名称を変え、新たな顔になりました。

特に大きく変わったのは、2つのブランドを備えた2棟のビル、オークラ プレステージタワーは国際都市、東京としての躍動感や機能と日本の情緒を備え、一方のオークラ ヘリテージウイングは日本的伝統文化や歴史的遺産を残した静謐な設えの館内です。

また正面エントランスの前にあるオークラスクエアは、大きな水盤に向かいの大倉集古館と周りの風景が水面に映りこみ、季節と時間によって移ろいゆく風景に、見る人の心を和ませる工夫が施されています。

かつてホテルオークラ東京の顔でもあったメインロビーは、梅の花に見立てた椅子とテーブル、古墳時代の首飾りをモチーフにしたランタン、麻の葉文様の美術組子、四弁花文様の屏風風壁面など、時間と共に採光の表情が変わる雰囲気は以前のように再現されて懐かしさが蘇ります。

ロビー以外にも館内のいたるところにインテリアと装飾が元のままに残されているのが嬉しく感じられます。

創業時のロビーを設計された故・谷口吉郎のご子息・谷口吉生さんが今回の建築デザイナーとして携われ、親子2代による施工にかつての雰囲気が彷彿されます。



代表取締役専務兼総支配人の梅原真次さん  
(写真提供:The Okura Tokyo)

本年6月、新たに総支配人に就任した梅原真次さんから「これまでオークラが培ってきた伝統美や和の精神を引き継ぎつつ、最新の設備・機能に刷新したThe Okura Tokyoで、国内外の皆さまから愛されるホテルを目指し努力していく所存です」と、メッセージをいただきました。

### 地域の人々と宿泊客の憩いの場

#### 港区立江戸見坂公園

敷地の東側、江戸見坂に沿ったエリアはホテルから区に譲渡され、区立江戸見坂公園になっています。

平成25年(2013)に東京都が「公園まちづくり制度基本方針」を策定、それに基づき区は平成26年(2014)に「港区公園まちづくり制度実施要綱」を制定しました。

その年に(株)ホテルオークラと(公財)大倉文化財団が、「公園まちづくり制度」を活用してホテルの建て替えと公園整備を一体的に行う内容の「公園まちづくり計画提案書」を区に提出、双方で協議を進めて着工に至り、令和元年(2019)8月27日に開園となりました。

江戸見坂公園には5種のサクラやヤマボウシ、イチョウなどの1年を通して季節を感じられるような植栽が行われ、休憩用にベンチが設置されています。



オークラ庭園と一体的に整備された江戸見坂公園



江戸見坂公園に繋がる竹林



新しい様相になった全景、右は41階建てのオークラ プレステージタワー  
左は17階建てのオークラ ヘリテージウイング(写真提供:The Okura Tokyo)

#### 公園と一体的なオークラ庭園の整備

公園から西側へ進み、竹林を抜けると汐見坂と霊南坂に面した傾斜地のオークラ庭園に繋がっています。樹木と多種の草花に時代を映す灯籠が点在し、和風庭園の趣です。

ホテルの利用者を始め近隣で働く人々、近くの園児たちや犬の散歩コースに利用されています。

江戸見坂公園と合わせ10種類、約40本が植えられているという庭園のサクラの木が成長し、やがて咲き誇るようになると桜の名所になることでしょう。

地域の緑地として、憩いの場として、あるいは散歩コースにと、気軽に利用していただき、街のランドマークにしていきたいという、ホテルとしての気概が感じられます。

取材・文：千葉みな子



The Okura Tokyoのロゴマークの基になった銀杏の樹

#### Information

The Okura Tokyo

虎ノ門2-10-4

TEL 03-3582-0111

<https://theokuratokyo.jp/>



# お芝の老舗

慶應元年創業の老舗内装施工店  
＝「中村表装株式会社」＝

西新橋にある中村表装株式会社、5代目の前田光弘社長にお話を伺いました。

## 「中村表装株式会社の始まりは内装屋ではなく経師屋です」

経師とは、経巻の書写や表装をする人のこと。経師屋は、掛け軸や襖、障子などの表装をする職人。江戸時代には名字帯刀を許されました。

初代の中村善四郎が、現在の虎ノ門にあたる琴平町に経師屋を創業したのは慶應元年(1865)のこと。

江戸開城後、日本が殖産興業に湧いた時代、琴平町近くにある外務省から、海外向け洋画の額装を請け負っていました。

戦後、東京は焼け野原となり、現在地に移転して事業を再開します。日本の復興需要や昭和39年(1964)の東京オリンピックに向けたホテル建設を背景に、掛け軸や襖、障子の表装から、壁紙を貼る壁装等への需要の高まりに応じて、事業を展開してきました。

官庁やホテル、大型施設や重要文化財に携わり、高い技術と品質を重視した「中村クオリティ」を150年以上にわたり守り続けています。



次世代への技術伝承と人材育成に力を注ぐ前田光弘社長

## 職人の技術向上と近代化

前田社長が奥さまの実家の中村表装に入社したのは28歳の時。それまでの経歴とは全く異なる業種でした。未経験の業界ながら義父から5



細やかな作業で進められる障子の張替

代目を継ぐことを要請され、男なら何がなんでもやり通すと決意を固め挑みました。

入社当初、古き日本の職人世界に大変戸惑いを感じたそうです。当時は、社員よりも外注への依存度が高く、管理は困難でした。そこで、職人の管理体制を整えるため、社員7割・外注3割へと改革しました。また、当時では珍しい、賄い付きの全室個室独身寮を用意し、社員の定着率を上げました。さらに、職人の地位向上のため、技術養成はもちろん、日頃の所作やマナー、接客を職人教育に取り入れました。中村表装の財産は「人」と公言する前田社長。現在、最も重要視しているのは、人材の育成、職人の技術向上です。今でも毎年、社長自ら、すべての職人・スタッフの個人面談を行っています。

全てのスタッフが、中村表装のプライドを持って日々の仕事に取り組んでいる今のこの状況は、老舗を未来へ繋いでいくという5代目の強い決意の結果だと感じました。

## 意匠性・品質向上を目指した技術の革新

5代目の社長室の四面の壁は、ペルサイユ宮殿で使われている緞子張りの壁が一面、古くからの和紙の原料・楮を用いた壁紙が二面、そしてもう一面には本物の桐を使った壁紙が貼られています。重厚な緞子張りと、粋な楮の和紙壁紙や斬新な桐の壁紙に囲まれると、壁装の魅力が直に伝わってきます。

前田社長は毎年ヨーロッパを訪問し、様々な技術やデザインに触れ、そしてそれらを今日まで培われてきた日本の壁装技術に積極的に取り入れ、意匠性と品質の更なる向上を目指しています。

国内でも革新的な新材が生産されていて、前田社長は、国内外の新しい素材や技法を自社の施工へも柔軟に取り入れられるよう、職人・営業・現場管理者達へ伝達。中村表装の彼らは、社長のその期待に応えられるよう日々、技術の向上と革新に邁進しています。

## 伝統と安全、未来の表装業へ向けて

職人世界の「見て覚えろ」という慣習は、非効率であると、壁装研究会の会長として技術養成や職人教育に力を入れてきました。東京室内装飾事業協同組合の理事としても、壁装技能検定の問題作成に長年携わっています。

1980年代の大型ホテル火災を経て、防火規制が厳しくなり、昔のような厚みのある織物壁紙の使用が困難になっています。防火面の安全を



西新橋の本社ビル

重視することも起因し、現在、実際に使われている壁紙の素材は、大半が塩化ビニールです。そんな中、伝統の織物壁紙の施工技術が途絶えないように、日本壁装協会主催の施工講習会が日本各地で開催されており、協会の理事でもある前田社長も力を注いでいます。

この講習会には中村表装の職人も講師役として参加。日本全国の職人の織物壁紙に対する技能向上を目的としています。織物壁紙の施工経験がない職人でも、講習会に参加して貼り方を見て、実際に施工してみると一通りの流れが分かるようになるそうです。

また、ここ30～40年間の国内の低価格競争も、日本の伝統的な素晴らしいものを衰退させてきました。伝統と安全のせめぎ合いの中、職人の世界を近代化し、マネジメントに成功した前田社長。夢は、江戸から伝わる歴史を守り、新しい工法を取り入れながら、中村表装の技術を継承し、壁装業界全体の向上にも貢献し続けることです。



楮の壁紙の前で、前田社長と長女の前田光副社長



職人による障子の張替

取材:森明 / 早川由紀  
文:早川由紀

### Information

中村表装株式会社  
西新橋 2-4-5  
TEL 03-3504-3301 (代表)



御成門中学校は今年50周年をむかえ、11月9日に式典と祝う会が催されました。佐藤太校長先生に伺ったお話をレポートします。



御成門中学校は、昭和44年(1969)に近隣の愛宕と北芝の中学校が合併し、芝公園の文教的地域に創立されました。校章は3枚の葵の葉柄を中央に集め、「中」の字を配したもので、開校当初に生徒のデザインを募って作成しました。

今回創立50周年を記念して創られたロゴマークは、平成10年(1998)長野冬季オリンピックのシンボルマークをデザインした、7期卒業生の篠塚正典さんがデザインしました。

300人近い在校生たちのメッセージを一つ一つ読んだ篠塚さんが、未来への希望を込めて緑と太陽をイメージしたものです。篠塚さん自身、御成門中学校在学中の3年間、美術の授業や学校行事のポスター制作などにふれたことでグラフィックデザイナーになろうと決めたそうです。

生徒の自主性を育み、創造性を伸ばそうという当初からの校風が現在も続いていることが伝わってきます。



(写真提供:御成門中学校)

生徒一人ひとりの「考える力」を育むことに重点を置く校風で、そのための試みを学習指導に導入しています。学生ボランティアによる放課後の補習授業で個別に行き届いたフォローをし、基礎学力を身に付けさせます。そのうえで、アクティブラーニングを通じて、プレゼンテーショ

ンク・思考力・対話力の強化に努めています。グループワークショップでは、まず小さい集団で自信をつけさせ、話の得意な子どもだけではなく、誰もが物おじしないで発言できるような工夫がされています。

9月からは生徒一人一人にタブレットを持たせ、学内にWi-Fi環境を整え、「調べ学習」の補助とし、調べたことについてどのように考えていくかにより力点を置けるようにしています。

先生たちが時代を先取りした授業を工夫していく努力は相当なものだと思うのですが、それに関しては、「生徒たちが素直にまじめに取り組んでくれるので、やりがいがあるって頑張れる」そう、とてもいい循環が生まれているとのこと。

情操教育の一環として10年前からダンスの授業にも力を入れてきています。生徒たちがチームを組んで振り付けを行ったダンスを運動会で披露し、プロの審査員も呼んでコンテストを行うのです。ダンス部は地域活性化プロジェクトのイベントに参加したり、大会に臨んだりしています。3年生の特別授業では、プロのダンサーの指導の下、パフォーマンスダンスを創作します。全国大会では平成30年(2018)は金賞、本年は関東大会で銀賞に輝きました。

ボランティア活動にも力を入れています。毎年新しいアイデアが生徒たちの間から生まれ、企画力・実行力が培われています。上級生が下級生を導き新しい試みが実践されていく、代々受け継がれているプロセスです。上級生たちも引率力が身に付くそうです。

「社会が変化していく中で、予測が困難な時代になっていく。学んだことが将来の社会で生きる力になっていくためにも、より一層のコミュニケーション能力を身につけ、協働して答えを見出すことが可能な生徒たちに育ってほしい」という校長の願いを背負って、「全国に誇れる御成門中学校を創る～世界に発信する」をスローガンに、明るく元気にのびのびと育っていく中学生たちの次の試みはどのようなものか。活躍が楽しみです!

取材・文:米沢 恵美  
写真:米原 剛



旧愛宕中学校校舎(写真提供:御成門中学校)



旧北芝中学校校舎(写真提供:御成門中学校)



開校50周年記念式典での校歌「合唱」(写真提供:御成門中学校)



式典で除幕した体育館の校歌額(写真提供:御成門中学校)

## 卒業生コメント

### 旧愛宕中学校 昭和23年(1948)度卒 清水 軍治さん(前:芝公園一丁目町会長)

第二期生の同級生は約160人。旧愛宕小の校舎を使い、床は板張りですごく狭く、校庭が狭く穴だらけだったことを思い出します。アコーディオンを中学時代に始め、妻は1年後輩のコーラス部員でした。人生で最大の出会いを2つ得た学び舎です。

### 旧北芝中学校 昭和38年(1963)度卒 的場 繁さん(虎ノ門三丁目広栄町会長)

野球部では愛宕山「出世の階段」登り下りトレーニングで鍛えられました。3年のとき、区連合体育大会で国立競技場へ行き、翌年の東京オリンピックに思いを馳せながら同級生を応援したのを覚えています。

### 御成門中学校 平成30年(2018)度卒 深瀬 真子さん(前:御成門中学校生徒会長)

私は御成門中学校での多くの貴重な経験から自分の可能性を広げ、心身共に成長することができました。先生や友達、設備環境に恵まれた御成門中学校で青春のひとつを過ごせたことは、私たちの誇らしい思い出です。



### Information

区立御成門中学校  
西新橋 3-25-30  
TEL 03-3436-3551



# 東京慈恵会医科大学附属病院通信・第5回

## 新外来棟・母子医療センター 2020年1月4日(土) オープン

### JIKEI 2020 REBORN



エントランスホール

## 慈恵大学病院が生まれ変わります

### — 建学の精神に基づいた患者中心の治療を実践 —

特定機能病院として、これまで高度医療を中心とした先進的な取り組みを進めてきた「東京慈恵会医科大学附属病院」が2020年1月に新外来棟と母子医療センターをオープンする。新外来棟では各診療科の緊密な連携に基づく包括的・横断的医療、患者さんの利便性を重視した医療、未来を志向した医療の3つを柱とした医療が行われる。母子医療センターは一つの建物の中に小児・産科部門がすべてまとめられている施設であり、ハイリスク妊婦のケア・新生児医療・小児の高度先進的医療を担うセンターに大きな期待が集まっている。新外来棟・母子医療センターの開設にあたっては「原点回帰」を病院運営の理念に掲げている。

病院が新しくなっても、長い歴史の中で受け継がれてきた患者に寄り添う精神は変わらない。井田博幸病院長に新外来棟・母子医療センター開設に向けての意気込みを詳しく伺った。



東京慈恵会医科大学附属病院 院長 井田博幸さん

### Q 病院運営の理念として掲げられている慈恵大学病院の原点を教えてください。

#### 慈恵大学病院の医療の原点

##### 社会貢献の精神と 慈愛の心を基本とする医療

社会に役立つ医療を行うこと、思いやりの心を忘れないこと

##### 医学を基礎としながらも 人間味のある医療

学術的な視点を重要視しつつも患者さんを第一に考えること

##### 患者さんを中心とした全人的な医療

単に病気を診るだけでなく、患者さんと痛みを共有し、共感すること

当院は、有志共立東京病院として開設された慈善病院で、根底にあるのは「社会貢献」と「慈愛の心」です。建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」に基づいて、病気の治療だけでなく患者さん全体を診る全人的医療を展開しています。2020年1月に新外来棟・母子医療センターがオープンしますが、設立から140年近い歳月が経って、病院が新しくなっても大切にしている精神であり、受け継いでいきたいと思っています。

### Q 新外来棟はどのような機能を持つのでしょうか。

近年は高齢化に伴い、さまざまな疾患を併せ持つ患者さんが増えています。糖尿病の患者さんが心臓にも持病を抱えているなど、いくつもの診療科を受診しなければならない方も多

です。そのため、各診療部の連携を強化して包括的・横断的医療を展開していきます。また、関連する領域の診療科を同じフロアに配置し、患者さんの利便性を高めました。例えば、消化器エリアには消化器・肝臓病内科、内視鏡科、上部/下部消化管外科という診療科をまとめました。もう一つ、未来医療への取り組みにも注力していきます。6階に細胞治療のためのCell Processing Facilityを開設。細胞を培養したり処理したりするための専用の部屋で、細胞治療や遺伝子治療などの領域で活用されます。私たちが目指しているのは患者さんに優しく、全人的で未来志向の医療です。新外来棟はこれらのコンセプトのもと設計されています。

### Q 母子医療センターと慈恵大学病院の特徴について教えてください。

高度な医療技術が必要とする小児患者やハイリスク妊婦を受け入れられるように、集中治療室を拡充。新生児集中治療室(NICU)と小児集中治療室(PICU)を増床するほか、母体胎児集



一般病棟(小児科)

中治療室(MFICU)も新たに6床設けます。無菌室を配置することにより骨髄移植などの高度医療にも対応可能です。小児医療から成人医療の移行期医療、人生をひとつのライフサイクルととらえる成育医療を行っていきます。そして、小児・家族を包括的に診療していきます。また、慈



小児集中治療室(PICU)

恵大学病院の特徴は各診療科が連携をとりながら診療を行う包括的・横断的医療です。新外来棟に設置されている遺伝診療部をコアにしたゲノム医療はその象徴です。外科系ではステントやカテーテルを用いた低侵襲手術が当院の強みです。

### Q 理想の病院像はどのようなものですか。

医療面の理想は、高度で先進的な医療を提供していくことです。研究を推進し、新しい技術・設備を取り入れ、難治性の疾病を治療していきたいです。そのために、高度な医学知識と医療技術を有する人を育てていきたいと思えます。また、概念面の理想は、患者さんに選ばれ、働くスタッフが誇れる大学病院であることです。患者さんに安心感を与え、信頼を得られる病院になれたらうれしいです。病気を治すだけでなく、心もケアできるような真の意味でのハピネスを提供できる病院を目指しています。



ブロック受付

### Q 地域の皆さまへメッセージをお願いします。

今、医療は非常に複雑化しています。だからこそ大事なのは、患者さんにとっての分かりやすさ。新外来棟には患者さんのためのサポートエリアを設け、複雑な医療ニーズに応えられる環境を整えています。大きな病院では特に、どの診療科を受診すればよいのか分からずに、困っていらっしゃる患者さんが多いと思います。サポートエリアでは、そうした患者さんをご案内するコンシェルジュのような役割を果たすほか、各地にある連携先の病院と緊密に連携をとり、入院から退院までをフォローします。

時代の変化に合わせて、新たなニーズに対応する医療を展開するのが私たちの使命。患者さんに寄り添う「慈恵の心」はこれまでと変わらずに持ちながら、どんどん新しいチャレンジをしていきたいと考えています。

取材：米原 剛

写真・資料提供：学校法人 慈恵大学

#### Information

学校法人 慈恵大学  
西新橋 3-25-8  
TEL 03-3433-1111(大代表)  
http://www.jikei.ac.jp



## 芝の家・ちゃぶ台日誌 秋編

どなたでも自由に入出入りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々近所の方から遠方の方まで、年代も0歳～学生～シニア世代まで、多種多様な方が立ち寄ります。

10月6日、「いろはにほへと芝まつり」を開催しました。今回は、11周年の記念と共に、いよいよ取り壊しになってしまう旧拠点への「ありがとう」の気持ちを込めて催しました。



事前に「旧拠点への気持ちをみんなに残そう!」というイベント

「芝の家 おもいでワークショップ」を開催し、たくさんの方が、それぞれの想いを黒板に書き残しました。その想いが素敵な黒板アートになり、当日お披露目されました。



当日は小雨が降り出し、外での企画は残念ながら断念し、家の中へ変更しました。中では、8年前学生スタッフとして携わっていた方が、卒業制作として制作した当時の芝の家の模型や、日々を観察した写真やイラストを載せた冊子を展示。8年前の芝の家の様子をみんなで共有することができました。変わっているようで変わっていない芝の家にみんな感動。そこに写っている小さなお子さんが、今なお来てくれている中学生だったり、「僕若いね〜」とご本人が大笑いしていたり、とても和やかな空間を作っていました。



昨年1番が出来上がった「芝の家のバースティング」の2番を作る、という企画へ。皆さんから集めた芝の家の思い出の言葉をもとに、テンポ良く作られていきました。素敵な歌と振り付けが出来上がったので、芝の家にお越しの際は是非聞いてみてくださいね。



自由に皆さんが楽しむ時間へ。歌作りをリードしてくれた「音あそび実験室」の皆さんといるのが、世代的な人たちが混ざって音楽を楽しみました。



最後は、旧拠点跡地のこれからの話「芝のはらっぱ計画」を話し合いました。子どもから大人までみんなの夢がどんどん提案された楽しい時間が過ぎていきました。

さて明日の芝の家ではどんなことが起きるでしょう。

芝の家の昔を振り返ることも、これからのことを考えることもできたおまつりでした。そしてあらためてたくさんの方達の想いが込められている家だということを感じた一日でした。

#### Information

芝の家  
芝 3-26-8  
TEL 03-3453-0474  
開室日時：火・木曜日/11:00~16:00  
水・金・土曜日/12:00~17:00  
休室日：日・月曜日、祝日  
http://www.shibanoie.net/



「ちゃぶ台日誌」は、芝の家ホームページにて日々の様子やイベントのお知らせを投稿するブログのタイトル。ぜひホームページも合わせてご覧ください。

# 古書に触れるひととき 芝・三田の景色と共に、

## 雄文堂書店



現在の三田(桜田)通りは、赤羽橋方面に東京タワーを仰ぎ見ることができ、またその通り沿いは、オフィス街化がすすんでいます。

三田の歴史は、明治4年(1871)、肥前島原藩中屋敷跡(現在の三田2丁目付近)に「慶應義塾」が移転してきたことにより、下宿屋・食堂・書店・文具店などが増え、武家町から学生街へとまちは一変し、その後も時代と共に移り変わってきました。

しかし今もなお、昔ながらの面影を残す商店や路地が味わえるのも、三田のまちの魅力のひとつです。そのなかでも学生街に欠かせなかった古書店は、区内でも現在は10件もなく、貴重な存在になっています。

慶應義塾大学三田キャンパスの東門から出た目の前、三田(桜田)通りを渡ったほど近いところに、古書店「雄文堂」はあります。足早に通る過ぎそうになるところ、その店先のワゴンにある文庫本などの古書が目が留まります。本に囲まれた店内は、外とは打って変わって静かな別空間です。

雄文堂書店は、当主の父、村上さんが丁稚奉公していた神田神保町の古書店から独立をし、昭和25年頃、この三田の地に店を構えました。それから代変わりした後に一度、店を閉じたこともありましたが、また再開して現在に至っています。

そもそもこちらの古書店は、学生さんの教科書の売り買いが多いものでありましたが、そういった風習はもう減ってしまい、今は、院生や留学生の利用があるということです。

土地がら、浜離宮あたりから歩いてきた外国人観光客の方が道を聞きつつ、本も見ていかれることも少なくないそうで、日本語文字をデザインのように楽しんで購入されていくなどの面白いエピソードも。取材で伺った時は、オフィス街の人が休憩時間に訪れているような光景もありました。



江戸時代の厳島での観光名場所を記した書物「厳島」

「ぜひ、手に取って本を読んでみてください。時間つぶしでも良いので、その時間のなかで思いがけない本との出会いがあるかもしれません」と、雄文堂さん。

ジャンルや、年代もさまざまな古書が、ところ狭しと積み上げられているなかから、気の向くまま自由に手に取ってみる。そこから、古書ならではの楽しみ方が広がります。

三田のまちの景色に溶け込む雄文堂で、読書のひとときは、いかがでしょうか。



取材・文・写真：桑原 庸嘉子

### Information

雄文堂書店  
芝 5-1-12  
TEL 03-3451-7053  
営業時間：12:00～19:00  
定休日：土・日・祝

# 「サロン活動」訪問記

オーガニック子育てサロンBio



今日はスペースも余裕があります

ヨガマットの上で、講師の厳しくも優しいご指導のもと1時間以上汗びっしょりになりながら、皆さん時折、笑いも交えてヨガを楽しんでいます。

ここは赤羽橋近くのみなと保健所2階にある区立子ども家庭支援センターの地域活動室です。日本語、英語、さらにヨガの専門用語を駆使して、さまざまなポーズが次々とくりひろげられています。

毎週木曜日午前10時15分から、途中休憩をはさみ1時間半、ヨガにみっちり取り組んでいます。その後のランチ、おしゃべりもまた参加者の楽しみの一つのようなのです。

本日は代表の倉橋愛子さん、尾畑美枝さんにお話を伺いました。



尾畑さん(左)と倉橋さん

### —— サロンを立ち上げた経緯

7年前に、産後ヨガの集まりに参加し、そのメンバーが中心になり始めました。当時は東日本大震災の直後で「人との繋がりが重要」という思いから、子

育て中でも「外に出て友人を作りたい」という気持ちが若いママのあいだにあり、ヨガ教室の後も高輪区民センターで集まりを続けていました。縁あって5年前に港区社会福祉協議会のサロン登録をしました。

### —— 参加者はどのような方?

参加者は乳児から小学校低学年の子どものママが主体です。中には妊娠中の方も参加しています。登録者が全員毎回参加しているわけではなく出席者が数名の時もあります。

赤坂、芝浦、三田と港区内のさまざまな地域から参加しています。年代は30代から40代が主です。

### —— バリエーションも考えて

週に1回活動していますが、クリスマス会など2回は近所のパーティールームを借りて皆で楽しんでいます。

### —— 今後取り組んでいきたいこと

親の悩みも日々変わるし、参加者も復職したりと入れ替わるので、皆で集まれる場所を確保していきたいです。

子どもが小さい時の親同士の友達は大切にしたいですね。

毎日慌ただしい子育て中でも、週に一度くらいは自分を見つめることに専念する場所があっても良いと考えています。



ちびっこママと一緒に楽しそう(写真提供:港区社会福祉協議会)



汗びっしょりになりながら取り組んでいます

割を分担しています。参加者も主体的に関わり、アイデアを持っている仲間もいるので、気負わず運営ができています。

「子どもの頃から親と一緒に地域に関わっていたので、自分も地域に関わりたと思っています」と、倉橋さんの物静かにお話しされる姿が素敵で印象的でした。

取材・文：伊藤 早苗

### Information

オーガニック子育てサロンBio(ピオ)  
活動日：木曜日 10:15～11:45  
活動場所：区立子ども家庭支援センター 地域活動室 (三田1-4-10 みなと保健所2階)  
問い合わせ先：港区社会福祉協議会 地域福祉係  
TEL 03-6230-0281



## NEWモノづくり講座編

芝地区のいきいきプラザでは、モノづくりに関するさまざまな講座も展開されています。今回はそんな中でも、目新しい講座をご紹介します。

取材・文・写真：米原 剛

### シャドーボックス講座

シャドーボックスとは17世紀のヨーロッパで流行したデコパージュの技法の一つで、その後アメリカに伝わり、立体的に発展して出来たハンドクラフトです。

初回は、令和に合わせて講師のオリジナルデザインで作っています。どの方も初めての参加で不安だったということもありましたが皆さん達成感を感じられたようで、大変好評でした。



### アクリルたわしづくり講座

アクリルたわしとは、アクリル100%の毛糸で編んだたわしで、洗剤なしで食器やシンク磨きに使うことが出来るエコなたわしです。かぎ針を使っての編み物ということで、参加した方々には戸惑う様子もみられましたが、作品が完成すると皆さん大満足でした。



### くつしたアニマル講座

くつしたでかわいいぬいぐるみをつくるというこの企画。

最初はくつした選びから始まり、講師が熱心に説明しながら作ります。男性の方も参加いただくなど、和気あいあいと時間が過ぎていきます。終わった後には、写真撮影会も実施し、大変盛り上がりしました。



### 臨床美術講座

“五感を使って脳トレ・アートしませんか?”のキャッチフレーズで、実施しているこの講座は介護予防、認知症予防に効果があるとされている手法の一つです。

今回はパステルを使って「パステル色の空」という作品を作成していました。

「どんな空を描こうかな?」「あの時の空は何色を使ったら出るかな?」と思った空の色をパステルで表現していきます。一言に「空」といっても時間、場所、天候によって大きく変わります。それぞれいろいろな表情を持つ空をパステルで素敵に描いていました。



### Information

芝地区のいきいきプラザ3館では絶えず新しい楽しい講座が用意されています。詳細は各館にお問い合わせください。  
<https://shiba-ikiiki.com/>



- 三田いきいきプラザ  
芝4-1-17 TEL 03-3452-9421
- 神明いきいきプラザ(プラザ神明)  
浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500
- 虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)  
虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941



●写真・資料提供:百葉の会・東急コミュニティー共同事業体

# 令和2年度 港区民交通傷害保険に加入しましょう

## 東京都は令和2年4月から 自転車損害賠償保険等の 加入を義務化します

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。

また、自転車または身体障がい者用車いすの所有・使用・管理に起因して、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊したりしたこと等によって発生した、法律上の損害賠償を補償する「自転車賠償責任プラン」もあわせて募集します。令和2年4月1日より「東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が改正となり、都内で自転車を利用する人などの自転車賠償保険等の加入が義務化されます。

自転車事故でも被害の大きさにより多額の損害賠償金を支払わなくてはならない場合があります。いざというときのために「自転車賠償責任プラン」もあわせてご加入ください。

詳しくは、各総合支所で配布するパンフレットまたは港区ホームページをご覧ください。

※自転車賠償責任プランのみに加入することはできません。

### ■加入対象者

令和2年4月1日時点で港区に住所がある人

### ■保険期間

令和2年4月1日午前0時～令和3年3月31日午後12時

### ■加入方法

個人加入の場合

各総合支所協働推進課協働推進係または区内金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局)で配布する加入申込書にご記入のうえ、保険料を添えてお申込みください。

10人以上の団体加入の場合

各総合支所協働推進課協働推進係で、団体加入申込書にご記入のうえ、人数分の保険料を添えてお申込みください。

### ■加入申込期間

令和2年2月3日(月)～令和2年3月31日(火)

※金融機関での申込みは令和2年3月23日(月)までです。申込期間外のご加入はできません。

### ■コースの種類と保険料

表の6つのコースから1つを選んでご加入ください。複数のコースへのご加入はできません。

コース	補償内容	一時払保険料	最高保険金額
A	区民交通傷害Aコース	1,000円	150万円(交通傷害)
B	区民交通傷害Bコース	1,700円	350万円(交通傷害)
C	区民交通傷害Cコース	2,900円	600万円(交通傷害)
AJ	区民交通傷害Aコース+自転車賠償責任プラン	1,400円	150万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)
BJ	区民交通傷害Bコース+自転車賠償責任プラン	2,100円	350万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)
CJ	区民交通傷害Cコース+自転車賠償責任プラン	3,300円	600万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)

### 引受保険会社：損害保険ジャパン日本興亜株式会社

このご案内は概要を説明したものです。

詳しくは、損害保険ジャパン日本興亜株式会社東京公務開発部営業開発課(新宿区西新宿1-26-1)までお問い合わせください。

TEL 03-3349-9666 (平日午前9時～午後5時)

※損害保険ジャパン日本興亜株式会社は、関係当局の認可等を前提として、令和2年4月1日に商号を変更し、「損害保険ジャパン株式会社」になります。

### お問い合わせ先

芝地区総合支所協働推進課  
協働推進係

TEL 03-3578-3121

承認番号：SJNK19-09247  
承認日：2019/11/29

## 町会・自治会トピックス

新橋一丁目東部町会から発信する地名「新橋」の由来



「新橋」という地名の由来をご存じですか？ 実は、かつて新橋1丁目と銀座8丁目の間を流れていた汐留川に「新橋」という橋が架かっていました。橋は昭和39年(1964)の東京オリンピックに合わせた開発により姿を消しましたが、親柱(橋等の両端に立つ太い柱)のみ現存しています。

そんな「新橋」の親柱が、地元新橋一丁目東部町会の声をきっかけとして平成30年(2018)1月15日区指定文化財に登録、今年9月20日に標柱が設置されました。親柱のある「銀座・新橋ミニパーク」には以前多くのごみが捨てられており、町会も頭を悩ませていました。それをきれいにしたい、そして

「新橋」の地名の由来を発信したいという思いから区へ投げかけを続け、ついに実現しました。

町会長の木村暖子さんは「区指定文化財になったことで、親柱が後世に残ることになりうれしい。時間はかかったが、まちの人の声がかたちになることはとても素敵なこと。訪日客が増えるなかで、文化財の説明を記した標柱に英語表記を加えてもらったのも、まちの要望で区内初めての試みとなった」と振り返りました。



町会の人みんなで親柱を清掃中

買い物するなら地元の商店街で

- 本誌の制作には以下の編集委員が参加しています  
伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/柴崎賢一/柴崎郁子/田岡恵美/千葉みな子/早川由紀/森明/森田友子/米沢恵美/米原剛(五十音順 敬称略)
- 今後の発行スケジュールは次の通りです  
2020.3(第54号) 2020.6(第55号) 2020.9(第56号) 2020.12(第57号) ※各号発行月の20日ごろ

### 芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています

Going shopping? Visit our local shopping streets.

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。  
ウォーキングマップとしてご活用ください。

### 芝地区MAP

11～20は旧町名由来板の設置場所

- 1 The Okura Tokyo → P1
- 2 中村表装株式会社 → P2
- 3 御成門中学校 → P3
- 4 東京慈恵会医科大学附属病院 → P4
- 5 芝の家 → P5
- 6 雄文堂書店 → P6
- 7 三田いきいきプラザ → P6-7
- 8 神明いきいきプラザ → P6-7
- 9 虎ノ門いきいきプラザ → P6-7
- 10 子ども家庭支援センター → P7
- 11 新橋親柱 → P8

港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所1階)  
TEL03-3578-3192 FAX03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>